



北海道自然観察協議会

# 自然観察

目 次

No.121  
2017. 3 月

|                          |                |    |
|--------------------------|----------------|----|
| ・ 総会議案書案                 | 2016 年度事業報告    | 2  |
|                          | 2017 年度事業計画(案) | 4  |
| ・ 2017 年度総会・講演会・懇親会のお知らせ |                | 5  |
| ・ 連載 豊平川の野生のサケ 最終回       |                | 6  |
| ・ 観察指導員フォローアップ研修会報告      |                | 8  |
| ・ フォトミニギャラリー             |                | 9  |
| ・ フィールドニュース              |                | 10 |
| ・ ウォッチングレポート             |                | 12 |
| ・ 参加者の声                  |                | 14 |
| ・ 事務局だより・連絡              |                | 16 |



陽気に誘われたのか、姿をみせたエゾオコジョ 野幌森林公園にて 2月

# 総会議案書案2016年度事業報告

## 1. 観察会実施状況報告について

### (1) 一般観察会

2016年度の観察会は、滝野の集いを除き、46開催が予定され、3開催の中止を除き現在(2/11)まで41開催が無事終了しました。このうち報告書未着および報告書不備の4開催を除く37開催について、集計しましたので概要を報告します。

一般参加者 延べ506人

参加指導員数 延べ125人

年代別参加者数では、年代記載者493人中60代が231人とおよそ半数を占めています。以下70代151人、50代51人となっています(年代別未記載者13)。

最終集計は4月の総会で報告、及び会報122号に掲載します。各観察会の実施状況はその都度会報に掲載しています。

### (2) 第27回滝野の自然に親しむ集い

場 所：滝野自然学園

開催日：7月23日(土)～24日(日)

参加料：5,500円

参加者：一般参加者8家族18人(リピーター、2家族)、大人8、子供4人

指導員11人(当日7人、日帰4人)

## 2. 2016年地方開催研修会について

開催日：7月10日(日)

秘境浮島湿原を巡る(上川町・滝上町)を開催しました。地方開催研修会に位置付けして、旭川・紋別・幕別・湧別・津別・遠軽からの参加者(会員5人、非会員2人)を得て、時中一瞬の小雨以外は天候に恵まれ、予定していた日程通り実施しました。

## 3. 2016年全道指導員研修会について

開催日：10月22日(土)、23日(日)

晩秋から初冬にかけて足早に季節が変わりつつある中、第一日目は、黒松内町にある北限の歌オブナ林を、二日目は共和町のチセヌプリ溶岩台地にある神仙沼と倶知安町の羊蹄山の麓にある半月湖をそれぞれ観察しました。研修会には、札幌を中心に遠くは帯広市、幌延町から会員11人の参加がありました。

## 4. 2016年指導員フォローアップ研修会について

開催日：11月26日(土)、14:30～16:30

北海道大学クラーク会館集会室5において、テーマ『魅力ある自然観察会の進め方』で、

はじめに帯広の中村理事より「帯広の森(2017年度NACS-J指導員講習会開催予定地)の自然について」の報告がありました。続いて津別の山口理事より「秘境、浮島湿原を巡る観察会を開催して」の報告を受けた後、パネルディスカッションを行いました。

## 5. 会報発行について

2016年度発行、会報118号(6/15)、119号(9/15)、120号(12/15)、121号(17/3/15)計4回発行、編集部会は、5/24、5/31、6/14、8/23、8/30、9/13、11/22、11/29、12/13、17/2/21、2/28、3/14計12回開催

## 6. 総会・講演会・懇親会について

### (1) 総会

日時：4月10日(日)13:00～14:30

会場：札幌エルプラザ2F

環境研修室1・2

議事：2015年度事業報告 2015年度会計決算報告・監査報告、2016年度事業計画案、2016年度会計予算案、その他などの議案が報告・提案され了承されました。

### (2) 講演会：15:00～16:00

演題：身近なキノコの生態と役割を知ろう

講師：干場敏博氏(酪農学園大学教職センター特任教授)

### (3) 懇親会：17:00～19:00

場所：大庄水産札幌読売北海道ビル支店

懇親会では、理事・会員など12人が出席干場講師を囲んで和やかな宴会でした。

## 7. 事務局関係について

(1)：6/11、8/20、11/26、17/2/11、4/9(予定)5回開催

## 8. 組織の状況について

3月末現在で会員数250名

## 9. 北海道自然観察協議会のホームページ

観察会予定、観察会報告など随時更新

HPアドレス <http://www.noc-hokkaido.org/>

2016年度2月11日までの観察会の実施は、41件でした。ホームページに報告を掲載したのは、昨年同様21件で丁度半分で、写真の掲載は僅か5件でした。

大多数は文字による報告で、観察会の様子が中々想像できないようです。会の活動を積極的に発信するためにも、観察会終了後に報告と写真を数枚程度観察部に必ずお送りいただくようお願いします。

写真は、参加者が含まれる場合は事前に承

認を得るようにお願いします。

また観察会のみだけでなく、会主催「総会講演会」、「道庁・植物園」観察会、「滝野の自然に親しむ集い」、「研修会」などの報告と写真は、会の全体を知って頂くようになると思いますので、宜しくお願いします。

#### 10. 観察会の広報について

ウオッチングンター「ウオッチングガイド」、★ナビ北海道、北海道環境生活部環境室環境課、札幌市環境局環境都市推進部推進課「えこほろ」、北海道環境サポートセンター・メールニュース環境、札幌新星ライオンズクラブ

#### 11. 他機関との連携、交流について

##### (1) 講師派遣依頼

各種組織主催の講師派遣実施

##### (2) 共催・後援など

後援：札幌市教育委員会・札幌新星ライオンズクラブ

第27回滝野の自然に親しむ集い

#### 【備品・分野別ガイド】

観察会に使用したい方は、保管先へ申し込んで下さい。

得意分野での疑問や地域情報の問い合わせに回答される方々です。

#### 豊平川水系水生昆虫、魚類

根岸 徹 011-891-0556

〒004-0054 札幌市厚別区厚別中央4条

5丁目2-27

#### 昆虫（甲虫）

堀 繁久 011-571-2146 〒005-0832

札幌市南区北の沢2丁目20-18

#### 植物全般

与那覇モトコ 0133-74-7952

〒061-3211 石狩市花川北1条2丁目148

（分野別ガイドとしてご協力頂ける方は、事務局へ連絡をお願いします。）

| 備 品                        | 数量          | 保管先                          |
|----------------------------|-------------|------------------------------|
| 実体顕微鏡<br>ニコンファースブル<br>ミニ   | 2 台         | 横山武彦（江別市）<br>011-387-4960    |
| タモ網<br>追い込網                | 30 本<br>2 本 | 同上                           |
| 大型旗(120×180)<br>小型旗(35×43) | 1 枚<br>3 枚  | 池田政明（札幌市）<br>電話 011-708-6313 |
| ポール<br>（折りたたみ式）            | 3 本         | 同上                           |
| トリプル<br>バグビューアー            | 5 台         | 山形誠一（札幌市）<br>電話 011-551-5481 |

## Nacsj 自然観察指導員講習会の開催 案内(予定)

（公財）日本自然保護協会・北海道自然観察協議会共催  
北海道教育委員会・帯広市教育委員会後援(予定)

1978年から続くNacsj自然観察指導員講習会。

帯広の森をフィールドに2日間の充実したプログラムで自然の楽しさ、不思議さの「見る目」と「伝え方」を身に付けます。動植物の名前や知識からではなく、目の前の自然の仕組みや繋がり、人との関わりに目を向けます。

●期日 2017年9月30日(土)～10月1日(日)

●場所 帯広の森「はぐくむ」とその周辺の森(講習・実習)

帯広の森研修センター(宿泊)

●参加料 30,000円(Nacsj会員は25,000円 宿泊費含む)

●定員 40名

●主なプログラム

開校式(9時半)・野外実習1「自然観察の視点」、講義①自然保護②自然の観察、交流会(第1日目)

野外実習2「自然観察会の企画」①テーマ選択②観察会の下見③観察会の実施等(第2日目)

●問い合わせ先 横山武彦(電話011-387-4960 Eメール [y-hiko@abid.ocn.ne.jp](mailto:y-hiko@abid.ocn.ne.jp))

※3月末に開催の最終決定が出ますが、決まりましたら、次の会報に掲載とチラシの折り込みをする予定です。

# 総会議案書案2017年度事業計画(案)

## 1. 観察会の開催について

1)今年度の観察会実施計画は別表の「2017 年度自然観察会の予定」の通り、「滝野の集い」を除き 48 開催が予定されています。(2月11日現在)

今回掲載以外にも企画があれば観察部山形へご連絡下さい。できる限りバックアップしたいと思います。

2) 各観察会連絡担当者の方は、観察一般参加者名簿、指導員用名簿及び 17 年度観察会予定表など、観察会で使う用紙の必要枚数を観察部山形までご連絡ください。

3)観察会の報告書は観察部山形へ、保険料など現金は観察部会計小川へ送付ください。振り込みを利用する方は、会計（小川）へ申し出て下さい。印字済みの振込用紙をお渡しします。

口座番号：2770-9-34461

(通常払込加入者負担の用紙)

加入者名:北海道自然観察協議会観察保険料

4)観察会の予定及び実施状況は、会報及び北海道自然保護協会の HP でお知らせします。

<http://www.jade.dti.ne.jp/~nchokkai/kansatsu.html>

5)各観察会で作成・使用した資料を収集しています。会員が閲覧利用できる仕組みを検討中です。観察会報告書に同封するなどご協力下さい。また、観察会当日の写真がありましたら、観察部へお送り下さい。ホームページへ掲載いたします。

6)観察会の下見会を、会員同士の交流と研修の場として活用して下さい。

7)団体などから観察会の要請があれば、事務局が窓口となり、一括して指導員派遣の要請を受けていきます。

8)「第 28 回 滝野の自然に親しむ集い」は、自然観察 121 号(4)

滝野実行委員会（委員長・事務局・編集部・観察部・研修部各 1 名選出）と補佐で組織して実施する予定です。また現在保管している備品に関しても有効な利用法を検討して行きたいと考えています。

10) 共催で協議会の保険を使う場合は、参加者名簿と一人当たり 50 円の保険料を協議会へ送ってください。ただし、1泊2日以上は該当しません。

## 2. NACS-J 自然観察指導員講習会開催について

NACS-J（日本自然保護協会）と共催事業、帯広地区の会員の皆さんの協力を得て開催の予定です。

開催日程：9月30日（土）・10月1日（日）

会場：帯広の森「はぐくむ」その周辺の森と帯広の森研修センター

## 3. 指導員の研修について

1) 全道研修会：開催日・場所・テーマ未

2) 開催地研修会：開催日・場所・テーマ未

3) フォローアップ研修会

開催日・場所・テーマ未定。

4) 救急・救命講習会について

開催日：未定。

## 4. 会報発行について

122 号(6/15)、123 号(10/15)、124 号(3/15)、年 3 回発行予定

また、事務局ほか各部などの原稿の最終締め切りは発行日の 45 日前とします。

## 5. 第 28 回滝野の自然に親しむ集いについて

開催日：8月5日（土）～8月6日（日）

（期日は、2/22 日以降抽選連絡待ち）

場 所：札幌市南区滝野自然学園・滝野すずらん公園。

## 6. 2017 年度総会・講演会・懇親会

<総会>

開催日時：4月9日（日）13：00～14：00

会 場：札幌エルプラザ 2 階環境研修室 1・2

<講演会> (15:00~16:40 同会場で開催)

演 題:「北海道におけるマルハナバチについて」(仮題)

講 師: 西川 洋子氏 地方独立行政法人  
北海道立総合研究機構環境・地質  
研究本部環境科学研究センター自  
然環境部生態系保全グループ研究  
主幹

<懇親会> (総会終了後、17:30~19:30)

会 場: 大庄水産札幌・読売北海道ビル

会 費: 3,000~3,500 円

## 7. 保険について

共催で協議会の保険を使う場合は、参加者  
名簿と一人当たり 50 円の保険料を協議会へ  
送って下さい、但し、1泊2日以降は該当し  
ません。

**【観察会事故緊急連絡】事務局へ連絡をお願い  
します。**

保険会社代理店: ケイティエス 本間 茂  
電話 011-873-2655 日曜、祝日休業  
普通傷害保険 (エース損害保険株式会社)  
死亡保険: 600 万円、入院保険金額: 5,000  
円 (180 日以内) 日額通院保険金額: 2,500  
円 (90 日以内) 日額

## 8. 事務局関係について

### 1) 理事会

6 月、8 月、10 月、12 月、2018/2 月、4 月

の年 6 回開催予定

2) 各地域の活動の状況や課題などをお知  
らせいただき、会員がより活動しやすい体  
制を作り、活動を支援して行きたいと思  
います。また、会員各位から寄せられた事業  
及び観察会の予定や実施状況は、会報及び  
当会の HP でお知らせします。

### 3) 個人情報保護法について

北海道自然観察協議会では、個人情報  
保護法の対象団体ではありませんが、保  
護法の趣旨に基づき、入手した個人情報  
は、観察活動の目的以外には利用しま  
せん。また、保有する個人データは適正に  
取扱い、第三者に提供することありま  
せん。会員各位におかれましても、個人  
情報の取り扱いには留意され、特に会員  
名簿は外部に流失しないようお願い  
します。

### 4) 講師派遣依頼について

団体などから観察会の要請があれば、  
事務局が窓口となり一括して指導員派  
遣の要請を受けていきます。

### 5) 観察会カードについて

20 周年記念事業の一つとして作成し  
た「観察会カード」の無料配布 (送料発  
注者負担) を継続中です。希望の方は事  
務局へ連絡をお願いします。

# 2017 年度総会・講演会・懇親会のお知らせ

《総 会》日 時: 2017 年 4 月 9 日 (日) 13:00~14:00

場 所: 札幌エルプラザ 2 階環境研修室 1・2 (札幌市北区北 8 西 3 Tel 011-728-1222)

議 事: (1) 2016 年度事業報告 (2) 2016 年度決算報告・監査報告 (3) 2017 年度事業計画案  
(4) 2017 年度予算案 (5) その他

《講演会》15:00~16:40 (札幌エルプラザ環境研修室 1・2)

演 題:『送粉昆虫としてのマルハナバチ そして外来生物セイヨウマルハナバチの分布拡  
大と生態系にもたらす影響』

講 師: 西川 洋子氏 (地方独立行政法人北海道立総合研究機構環境・地質研究本部環境  
科学研究センター自然環境部生態系保全グループ研究主幹)

《懇親会》17:30~19:30 場所: 大庄水産札幌・読売北海道ビル店 (中央区北 4 条西 4 丁目 予定)

会費 (予定) 3,000 円~3,500 円 ※参加希望者は、4 月 5 日まで杉本にご連絡ください。

Tel/Fax 011-664-9263 e-mail akibare-sawayaka@ma4.seikyoku.ne.jp

## 連載『豊平川の野生サケ』 最終回 豊平川のサケと環境教育について

佐々木 北斗(札幌市豊平川さけ科学館学芸員)

今まで3回に渡り、「豊平川の野生サケ」についてご紹介させていただきました。最終回である今回は、さけ科学館も日々取り組んでいる『豊平川のサケと環境教育』について触れたいと思います。

### 1. 日本初の「増殖教育河川」である豊平川

1978年に始まったカムバックサーモン運動が発端となり、約30年ぶりに再開された豊平川へのサケ稚魚放流。連載①『札幌のサケは今？札幌ワイルドサーモンプロジェクトの発足』でも述べたように、当時、市民がサケの稚魚を放流することは法律で許されていなかったため、そこに漕ぎ着けるまでには相当な努力が土台にありました。1979年に、水産庁が豊平川を「調査河川」に指定したことで、放流が現実のものとなり、当時は100万尾規模の放流が行われていたのです。しかし、これだけの大規模な放流は「調査河川」の域を超えていたため、1985年9月水産庁は豊平川を「増殖教育河川」に指定（※日本で初の事例）し、放流数も約30万尾まで縮小されました。今から約30年前にはすでに、「教育」にも活用されていた川なのです。



第1回稚魚放流の様子

### 2. さけ科学館が現在取り組んでいる環境教育について

さけ科学館が主催している環境普及を目的としたイベントのうち、代表的なものを季節ごとにご紹介します。

- 【春】：サケ稚魚体験放流  
(カップに入れたサケの稚魚を放流してもらう)
- 【夏】：さかなウォッチング  
(参加者と川の生きものを採集し、学ぶ)
- 【秋】：さっぽろサケフェスタ  
(サケが回帰してきたことをお祝いする)  
サケ観察会  
(サケの産卵行動や捕獲したサケを間近で観察する)

そのほか、誰でも参加できるエサやり体験や外来種についての普及啓発イベント、外部依頼の実習対応も随時行っています。どれも、来てくださった方に自然環境や生きものを身近に感じてもらい、環境への関心を高めてもらうことを目的としています。

春の「サケ稚魚体験放流」は、1988年にスタート(1987年までは「豊平川サケ壮行会」という名称)してから毎年続けられており、近年は約4000名の方々が参加しています。カップを持った子どもたちが、サケ稚魚が大きくなって帰って来ることを願いながら放流している光景は、春の風物詩となっています。このイベントは、環境について広い範囲の方々に興味をもってもらおうという点で、非常に参加しやすいツールです。しかし、「放流は何のためにするものなのか。」ということについて考えたことがある人は少ないと思います。

放流についてのご説明は、会報6月号の連載①を参照していただくことで省略し、次節では今直面している課題についてご紹介します。

### 3. 放流に代わる何かを

放流の目的は、増殖や資源確保、教育普及など各河川で異なります。豊平川では、サケが戻ってくるようになった要因として、河川環境の改善のほかに、放流が大きなウェイトを占めています。かつて生息していたサケを再び見られるようにした放流の功績は大きいと思います。しかしそれを続けることが、豊平川で自然産卵によって再生産している野生サケたちにとって、良くない影響を与えている可能性があります。このように、メリットもデメリットも持ち合わせているため、放流が目的に沿っているか見つめ直すことが求められています。(※どの場合においても生態系に配慮した放流であることが前提です。)

放流は、カムバックサーモン運動の頃から「教育」や「環境保全」の目的で行われてきました。必ずしも「放流＝良いこと」ではないことが明らかとなってきた現代において、正しい知識をもってもらえるよう、放流のように誰でも気軽に参加できる「放流に代わる何か」を見付けるために模索しています。

### 4. 最後に

豊平川の水がなければ、札幌に住む人たちの生活は成り立たないのと同様、自然の恩恵なしに人は生きていけません。しかし、身近にあればあるほど、その価値になかなか気づきづらいものです。少しでも多くの方々に目を向けてもらえるよう、普及活動に取り組んでいきたいと思っています。

#### 参考文献

木村義一. カムバックサーモン運動とさけ科学館の使命. 札幌市豊平川さけ科学館開館30周年記念誌 p. 61-62 「碧」北海道サケ友の会20年のあゆみ p. 11より写真引用



体験放流の様子



さかなウォッチングの様子



さっぽろサケフェスタ  
重さ当て用のサケ



サケ観察会の様子

# 観察指導員フォローアップ研修会報告

自然観察指導員を対象とした指導員としてのレベルアップを狙いとした『2016 年度北海道観察指導員フォローアップ研修会』が 2016 年 11 月 26 日(土)、北海道大学クラーク会館会議室で 20 人が参加して行われました。

横山会長の主催者挨拶の後、指導員観察会報告として来年度に、本協議会と日本自然保護協会の共催で行う予定の「2017 年度 NACS-J 自然観察指導員講習会」開催会場として計画している「帯広の森」について中村 修一指導員から、また 2016 年度 7 月に上川町、滝ノ上町で行われた「秘境 浮島湿原を巡る観察会」について山口 紘司指導員からそれぞれ報告が行われました。



続いてパネルディスカッションに移り、横山会長の座長のもと、山形 誠一観察部長も加わって「魅力ある観察会の進め方」をテーマに討議を行いました。

以下、それらの内容について報告いたします。

## 《指導員報告》

### 中村指導員『帯広の森の自然について』

帯広の森は、行政と市民が一体となって 1995 年(昭和 50 年)から 100 年計画のもとで取り組んできているもので、現在 41 年目に入った。

この森は、400ha ほどもありスポーツ施設があるところとして知られているが、憩いの場をはじめ、学習の場、交流の場など多様な場がある。

森づくりのきっかけは、1970 年(昭和 45 年)に、第 5 代の帯広市長だった吉村 博氏が提案した「帯広の森構想」からで、その狙いは開拓で失われた森をもう一度、再現して市民に潤いと安らぎを与えたいということだった。

この後、71 年に制定された「第 2 期帯広市総合計画」の中の「近代的田園都市」として森の計画はスタートされることになり、買収された森の植生、地質等を調べる基礎調査を経て 1975 年に「帯広の森造成計画」が策定された。

森づくりに当たっては①ふるさとの森づくり②敵地適木③自然生態系に基づく森づくり等を基本理念として市民参加の森づくりを進めてきた。

とくに市民参加については、1975 年から本格的に行われるようになった「市民植樹祭」が果たした役割が大きい。延べ 15 万の市民が 30 回にわたって 130ha の土地に、55 種類、23 万本の植樹を行った。

15 年ほどにわたる植樹期間を過ぎると、間伐等の管理も必要となり、1991 年からは「市民育樹祭」が行われるようになり 2004 年までに、育樹祭に参加した延べ人数は 1 万 3000 人、間伐本数 4 万 9000 本に達した。

この後、植樹も含めた育樹管理については、帯広市、市民団体等による取り組みへと引き継がれて今日まで行われているが、とくにその中でも注目されるのが 2010 年に開設された「帯広の森・はぐくむ」だ。市民による植樹、育樹管理をはじめ、自然観察会、クラフト等の様々な活動が年に 60 回ほども行われている。

### 山口指導員『秘境 浮島湿原を巡る観察会』

2016 年 7 月 10 日(日)、「浮島湿原を巡る観察会(上川町、滝ノ上町)」を北海道自然観察協議会の地方研修会として開催し、旭川、紋別、幕別、遠軽、津別の各市町村から 7 人(ガイド 2 人、自然観察指導員 5 人、一般 2 人)が参加した。

浮島湿原は、北海道北部の通称滝上高地と呼ばれる標高 860m の台地上に形成された湿原だ。湿原の形成は約 2500～2000 年前と推定されている。面積約 21 ha、周囲 3 km の小規模な湿原であるが、湿地内に散在する大小約 70 の池塘(池)からなり、多様な高層湿原性ミズゴケ群が分布する山地高層湿原であ

る。大きな池塘(最大水深 3m、径 40m)には、浮島を抱えているものもあることから、浮島湿原と呼ばれている。湿原は、アカエゾマツ林やダケカンバ林に取り囲まれて発達し、優れた湿原景観を有する。また多様な高山植物を産することから風致保安林(自然景観を保つ目的の林)として保護されている。

浮島湿原林道入口に集合し、各々自家用車で駐車場まで移動。駐車場にて研修会のガイダンスをはじめ自己紹介、準備体操などをして出発。

途中、サルオガセ、トドマツ、倒木更新、岩石、クマイザサのマシガンホール、エゾアカガエル、エゾシカの足跡、鳥類の鳴き声等を観察をした。とくにマシガンホールについては、ササの葉に横一列に一直線に無数に穴が開いている現象で、見た目から日本では『ササのミシン跡』とか英語圏では「マシガンホール」呼ばれていることを現物を見せて説明を行った。

湿原からは、遊歩道があり一列になり観察を行う。遊歩道の経路に従い各植物、エゾイトトンボ、エゾアカマツ、ナナカマド、池塘、浮島等を観察。比較的大きめの池塘前で休息し、1 分間参加者に目を閉じてもらい、聴覚をフルに活用し何が聞こえるかを感じてもらった。

その後、ガイドの相原指導員が水質検査キットで水質を検査。そこで当池の水が酸性を示すということ、視覚で確認してもらった。

道中にてウグイスをはじめコマドリ、カッコウ、コガラ等の鳥類の鳴き声のほか、ツツドリ、ハシブトガラスの飛翔、アカゲラ、クマガラの食痕も見られた。帰りの国道に向かう林道中、北海道では「ヤマドリ」と呼ばれるエゾライチョウの家族群が見られた。

この後、黒曜石の転石露頭の遠望、湧別川流域大地の俯瞰などの湿原周辺大地を観察して終了した。

観察会を通じて感じたことは、単に解明していることを説明、解説するだけでなく「なぜ？」という参加者からの疑問に対して自分なりに解釈して話をするのも一つの方法だと思われる。

### 《パネルディスカッション》

この後、上記両指導員に山形 誠一観察部長も加わって『魅力ある自然観察会の進め方』をテーマにして横山 武彦会長が座長となってパネルディスカッションが行われました。

最初に座長より各パネラーに魅力ある観察会を行うに当たっての留意点について質問を行いました。これに対して中村指導員は「スッと自然に入って行けるようにすること」、山口指導員は「参加者が求めているものを把握すること」、山形部長は「参加して良かったと感じてもらふこと」とそれぞれ回答されました。

続いてほとんどの参加者が観察会を開催した経験があることを踏まえて、会場の参加者からも意見を求めたところ「楽しいと思わせること」、「自分が面白いと思うことをする」、「名前などの由来などを説明する」、「触ったり、匂いを嗅いだり、作ったりするなどのアクティブなものも取り入れる」、「昔の体験などを語ってもらう」、「定点観察を行う」などの貴重かつ様々な意見、提言が出されました。また「各指導員が行っている貴重な経験、やり方を冊子としてまとめて欲しい」という要求も出されました。

(村元 健治)

### フォックスギムリギャラリー



ユキホオジロの観察をした時の写真です。この個体は冬の野付半島で観察・撮影しました。身を隠しながら風雪に耐えじつとしていて、目の前に現れました。雪の間にある餌を必死に飛翔や歩行といった手段を用いて探していました。今後観察を継続していきます。また、この近辺ではワシ類のみならず、ハイイロチュウヒやコムシズクも盛んに飛翔しておりました。

(写真・文 津別町 山口 紘司)

## 蘭越町ふるさと動画コンテストで蘭越の自然を PR

蘭越町 大表 章二

私の住む蘭越町には「蘭越町移住・定住ネット」（以下ネットワーク）という組織があります。新規移住者への情報の提供や支援の活動、町民同士の交流などを目的として4年ほど前に設立されました。私は組織の一員としてホームページの制作・運営などに携わっています。

ネットワークはこの2月18日に「蘭越ふるさと動画コンテスト」を町民センターで実施しました。事前に募集した蘭越町をPRする作品が紹介され、審査委員が優秀作品を選んで発表するというものです。

募集時期が冬で期間も短かったにもかかわらず、町内外から35作品という多くの作品が寄せられ、米や温泉、自然や景観などの町の魅力、またほほえましい日常生活などを扱った作品のすべてが上映され、参加者みんなで観賞しました。

このようなイベントは過去に蘭越で行われたことはなく、ネットワークとしても初めての取り組みで、どれだけの作品が集まるかが未知数でした。動画は気軽に作れるという見本を示すとともに、応募作品を増やしてフェスタを盛り上げようという意図で、事務局のメンバーも作品を出すことになりました。

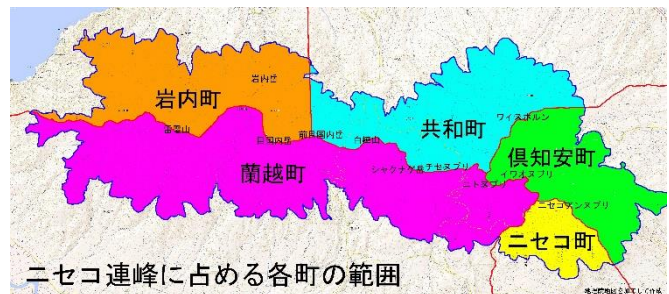
私も二つの作品に応募しました。新しく動画を作る能力にも時間にも乏しかったので、これまでに撮った写真の中からこれだと思うものを選んで、スライドショーにしました。

一つは「蘭越の山と花」と題して、ニセコの山々とそこに咲く花の写真をランダムに選ばれました。ただそれだけの作品です。もう一つは「目名川のサケ」で、尻別川の支流の目名川に遡上するサケとそれを狙って現れる野鳥、自然観察会の様子などを紹介しました。一つ目よりは多少工夫を凝らしたつもりです。

事務局の作品は審査対象外だったので、残念ながら賞は得られませんでした。蘭越の自然を町民に関心を持ってもらう点で、ちょっと効果があったような気がします。というのも、この取り組みの中で蘭越自然探検隊（10年ほど前から地域で自然観察会や生きもの調査を行っている）に1名の方が加入、3名の方から加入を検討したいという声が寄せられたのです。これに味を占めて、今後も蘭越の自然や蘭越自然探検隊の活動の動画を作ってみようと考えているところです。

私の作品を含め35作品がユーチューブに掲載されているので、興味のある方はご覧ください。“ユーチューブ 蘭越町ふるさと”などのキーワードで検索するとヒットします。

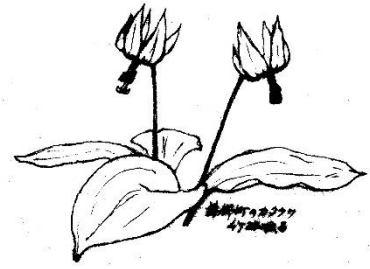
また、ネットワークのホームページには蘭越の自然を紹介したコーナーもあるので、ご覧ください。蘭越町移住・定住ネットホームページ”で検索してみてください。（2017年2月24日）



## 端野町のカタクリの森のこと

北見市 竹林 順子

私は、札幌に平成 11 年から 16 年までの満 5 年間住みました。早春に驚いたことは、札幌ではカタクリがあちらこちらに咲いていたことでした。端野では、森の奥にひっそりとポツンポツンと咲いている小さなカタクリが、当地では色も鮮やかに群生して咲いているではありませんか。カタクリって珍しくないんだわ！とショックでした。端野のカタクリは少ないために盗掘にあい場所を公開していないのです。



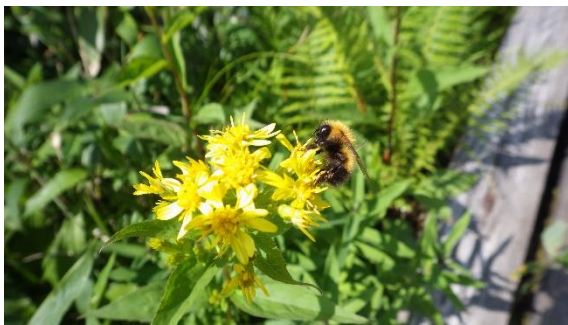
現在、私の住む北見市端野町は北海道のカタクリの分布の東の限界に近いといわれています。端野町のカタクリは昭和 63 年に役場職員によって報告されました。平成 16 年に「たんのカタクリの森の会」が設立されました。1 昨年には NPO 法人になりました。会では毎年開花時期に合わせて大学の先生による調査、観察会、笹刈り等を実施しています。カタクリの森は希少な植物も沢山ありますが、最近の気象条件の悪化や人為的にまわりの環境が変わってきています。願わくは、このまま端野のカタクリが減少することなく、沢山の方々に関心を持ってもらえるよう、これからも活動を続けてゆきたいと思っています。

## 旭岳での植物と訪花昆虫の調査

札幌市 水永優紀

私は博士課程の研究のため、1 昨年と今年の 2 年間の夏の間、旭岳で調査をしていました。調査地はロープウェイ麓駅から姿見駅までの登山道約 3.4 km です。旭岳は観光客がとても多いですが、そのほとんどがロープウェイを利用するため、この登山道はそれほど人が多くありません。標高は 1100m から 1600m となっており、森林帯、湿地帯（天女が原湿原）、高山帯の 3 つのタイプの植物を一度に見ることができます。

調査は雪が解け始める 6 月から始まり、雪が降り始める 10 月初旬まで週に 2、3 回登山道を往復します。植物の調査は、登山道中にいくつかある決まったポイントで半径 2m 以内の開花数を数えて行います。訪花昆虫の調査は標高差 500m の区間を 100m ごとに分け、その区間をゆっくり歩きながら、どのような訪花昆虫が何の種類の花にきたのかを記録して行います。これらの調査を行うことで、季節と標高に沿って、どの植物がどの標高にどれくらいの量が咲き、それらの花にどの昆虫がどれくらい来たのかを調べることができます。昨年は 46 回、旭岳を往復しました。実家が旭川のため、旭岳には車で片道 1 時間で行くことができ便利です。



1 昨年調査して得たデータを解析したところ、標高 1100～1200m の森林帯と標高 1500～1600m の高山帯で訪花昆虫の来る植物の種数が多いこと、高山帯で大きいハエ（特にクロバエ）が多いこと、標高が低いほどコハナバチ類が多いことなどが分かりました。今後は今年のデータも加え、1 昨年と今年のデータでどれくらいの違いがあるのか、各種の植物と訪花昆虫の関わり方の強さが標高傾度でどのように変化するか、どのような形態（色と形）の花にどの昆虫が来やすいのかなどを解析する予定です。



## 札幌市北区 屯田防風林 夏 2016/7/10

### オオウバユリ

小雨から本降りの雨となったが、防風林の中は雨が薄いと判断して挙行了した。

今年の開花の始まりは、春先の風に倒され、またカラスの被害もあり昨年の7割程度の群生でしたが圧倒されました。カラスに茎に穴をあけられ倒れていても、花言葉「威厳」の如く花を咲かせている姿に感動を受けました。

オオウバユリの繁殖のシステムなどを説明、防風林を1kmほど散策。  
エゾスズラン、エゾフウロ、ヒヨドリバナなど

を観察し、樹々、植物、鳥たちの命の息吹が感じられました。特にオオウバユリの奇形（1本の茎から上部で2本に分かれ、花が2個満開になっている。）を見ようと先に進むと、残念ながら、昨日あった花が誰かに持っていかれ、その跡を観察する羽目となりました。

心無い人の行いに怒りの声上がり、ルールを守ることが自然を守り、その命を次世代に継承する使命を痛感した一日でした。

（木村美太郎）

## 小樽市 長橋なえぼ公園 2016/10/23

### 生き物たちの冬ごもり

観察会開始時の気温が6℃と寒い中での観察会となりました。

落ち葉を踏みしめながら長橋なえぼ公園の中を、参加者と指導員とで、自然の中での活動を楽しみながら巡りました。

植物の冬ごもりの準備や、この時季ならではの昆虫の観察、また、木の実を拾いながら樹木の勉強をし、小樽での今年最後の観察会を無事終了し解散となりました。

（日下部 久）

## 千歳市 晩秋のウトナイ湖 2016/10/23

### 晩秋のウトナイ湖自然観察会

少し寒い日でした。観察できた植物・動物・昆虫など

木本：エゾノコリンゴ・ズミ・チョウセンゴミシ・マユミ・ツルウメモドキ・オニツルウメモドキ・コナラ・ミズナラ・カシワ・ギンドロ・キハダ・ホオノキ・カラコギカエデ・ホザキシモツケ・イボタノキ・メギ・ノブドウ・ハンノキ・ハウチワカエデ、タラノキ

草本：エゾノコンギク・アカネムグラ・コウライテンナンショウ・オシダ・ヒメシ

ダ・ガガイモ・地衣類

鳥類：オオハクチョウ・ヒシクイ・オナガガモ・キンクロハジロ・ヒドリガモ・ダイサギ・ハシブトガラ

昆虫：ハモグリバエの食跡・カバキコマチグモの古巣

以上のものなどが観察することができ、参加者に楽しんでいただけた観察会になりました。

（宮本 健市）

## 札幌市北区 秋の北大構内 2016/11/3

### 秋の北大構内 ～イチョウ並木とエルムの紅葉を楽しもう～

今年のイチョウ並木は緑の色が残っているのもありました。雨でしたが、カエデ類の紅葉を存分に楽しめ、中でもイタヤカエデの大木の黄葉は圧巻でした。



アズキナシ、エゴノキ、クロミサンザシ、アカナラ、クリ、コナラ、ミズナラ、ブナ、ヨーロッパナラ、サトウカエデ、シダレカツラ、ニガキ、アメリカキササゲ、アメリカサイカチ、ネムノキ、ユリノキなどはインターナショナルハウス敷地内で観ました。「生きていた化石」と言われるメタセコイアは羽状複葉に見えますが、側枝ごと落として円錐形の樹形を保つことに、植物のもつ不思議さを感じ合いました。

(須田 節)

## 苫小牧市 北大研究林 2017/1/8

### 野鳥・冬芽・動物の足跡

当日は晴れ。風もなく、0℃前後。前夜2cmぐらいの積雪があり、ちょうど良い観察会日和でした。この時季ですから、冬芽、足跡、野鳥を中心に案内しました。

駐車場のそばに立つカラマツから始めました。つぎにヤチダモとハルニレを比較し、他所から採ってきた冬芽を見せました。ツルアジサイの花の終わったかたまりを取り上げて説明、他所から持ってきたホオノキの冬芽を分解し

ました。

エゾシカ、キタキツネ、エゾリスの足跡を見ながら、それらの特徴、イヌ、ネコとも比較しました。

野鳥については、カラ類が近くまで寄ってきます。ダイサギとマガモがいました。ツルウメモドキやサルナシが広葉樹に巻きつき、梢の部分が折れた現場もありました。

(谷口 勇五郎)

## 札幌市北区 屯田防風林 冬 2017/2/5

### 街中の自然

朝から快晴で天候に恵まれた観察会になりました。

最初に、創成川の歴史についてふれたあと、下水道科学館前の橋上でマガモ、ヒドリガモ、ハクセキレイやカイツブリなどの水鳥を観察しながら、防風林へと向いました。

入り口の手前で、イチョウの木にヒヨドリが三羽、完(寒)熟銀杏の実を食べていました。

冬の風物詩の枯れたオオウバユリをみなが

ら、ハシブトガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、アカゲラ、針葉樹ドイツトウヒの樹上にはアオサギが2羽、空にはトビを観察することができました。

下水道科学館内ではネコヤナギ、オニグルミ、エゾハンノキ、キタコブシ、エゾニワトコの枝で、冬の厳しい寒さを乗り切る「命のカプセル」の冬芽の対策について学びました。

(池田政明)



## 参加者の声



札幌市 精進川 2016/10/9

椎原 信之

精進川を北(下流)から南(上流)に向かって歩き扇状地の地形の変化を観察し、合わせて動植物などの観察を行った。

集合場所から観察地のスタート地点に向かう途中、さっそく「ヨウシュゴボウ」が赤紫色の枝と緑色の実を見せてくれた。先日、月寒公園で濃紫色の実をつけていたが、その時はわからずじまいだった。早々に疑問解消である。幸先よいスタート。

精進川のスタート地点で指導員の方からコースと扇状地の説明があり、扇頂・扇央・扇端など地形用語を含め楽しく解りやすく勉強。色々な自然観察会があるなか植物が多く、時に動物が加わるものが多いが、地形・地質を解説する観察会は貴重・希少である。

精進川が住宅地の中を流れるため、園芸種も

多く、ハーブ類など普段はなかなか見られないものやエゾノコリンゴ、ヒメリンゴなど果実の実も観察。途中川が迫っている所では遡上したサクラマスのがつがいも出現。オスは体長1m程、悠々と泳いでいる。メスは残念ながら産卵後でホッチャレになっていた。

昔の氷池を観察。スタート地点付近で比高1m程であった段丘崖は平岸付近では、その比高を大きく増し15m程の段丘崖を形成している。崖上位の地形面を平岸面、川のある地形面を札幌面。色々勉強になります。

最後は精進滝へ。落差1~2m程の小さな滝なのだが、川は違うが南の藻南公園や滝野まで滝らしい物はないため、中々貴重な地形であろう。

天気ははじめ曇、最後は秋晴れで終わり快適な観察会であった。

苫小牧市 秋の錦大沼 2016/10/9

藤島 利夫

### 秋の草花とキノコに参加して

前夜の風雨がおさまり好天のもと、錦大沼の爽やかな空気につつまれた林の中を散策できた観察会でした。今までは錦大沼に行っても樽前山と森の景色などを漠然と楽しんでいるだけでしたが、説明を聞き樹木の名前や特徴について興味が強くなったのを感じることができました。複数の落ち葉を並べての比較は、色合いや形など細かく観察するときの手立てとなりました。

下から見上げるとサクラの紅葉の隙間から

見えた青空の美しさ、花だけがサクラではないとの思いを強くしました。足もとを見ると気付かずやりすごしてしまうほどの小さなキノコなどがあちこちに。多くのキノコを踏みつけてしまってから気づく次第。林に入る時は周囲の景色全体を、それから一本一本を、見る、触れてみるなど。これらは指導員から学んだことのひとつですが、楽しい一日でした。初秋の錦大沼を取り囲む緑の森のなかに黄色や真っ赤な葉、背景には青空と白い雲と樽前山がくっきり。またこよう。

小樽市 長橋なえぼ公園 2016/10/23

宮澤 純子

なえぼ公園は、普段からよく行く公園なので、もっと詳しく動植物について知ることができたら楽しいだろうなという思いで家族で参加しました。

◎小1の息子 「クヌギのどんぐりをたくさん拾って楽しかった。雪虫はすごかった。さわってみたかった。ブナの木の下書きは何でだろうと思った。たくさん教わって楽しかった。

◎夫 「多くの木や植物、冬芽やきのこなどについて教えてもらったので、自分で探せるようになりたい。顕微鏡で見た雪虫は衝撃映

像だった。」

◎1歳の娘と私 「娘にも親切にして頂き感謝です。詩吟を聞きながら森を眺めるとまた格別！」

拾ってきた木の実や葉を広げると森の良い香りがし、楽しかった思い出がよみがえります。夕食でも、観察会の話題で盛り上がりしました。これからまた、なえぼ公園へ行き、観察したり、遊んだりするのが楽しみです。他の場所の観察会や次の機会も参加してみたいと思っています。ありがとうございました。

苫小牧市 ウトナイ湖周辺 2016/10/23

秋山 光枝

苫小牧民報の記事で知った主人が1時間前に参加したいとの事で急遽集合場所へ。

寒い中ウトナイ湖の出来頃から、あと100年くらいで消滅するだろう事、周辺の草木の事、何よりも外来種の取り扱い等、皆様の取り組み、今後の事を知りました。

次は「草木が芽吹くころ」「処暑のころ」と楽しみが出来ました。

色々なグッズを使い大人も子供も楽しめた2時間でした。ありがとうございました。お身体ご自愛下さいませ。

札幌市北区 秋の北大構内 2016/11/3

船川 和子

11月3日文化の日、初めて参加させていただきました。あいにくの雨、途中からみぞれ混じりになった寒い日でしたが、紅葉は丁度見頃、とても綺麗でした。同じモミジでもハウチハカエデ、ヤマモミジ、イタヤカエデそれぞれ色づき方が違うこと、紅葉や落葉の詳しい仕組みも教えていただきました。イチョウが恐竜時代からの生き残り、生きた化石で絶滅危惧種と聞き、日本では一般的な並木な

のにとびっくりしました。プラタナス、メタセコイア、オニグルミ、ケヤキ、ミズナラ、アカナラ、コナラ、アズキナシ等々、葉っぱ、小枝、実をひとつひとつ手に取って見せていただき、樹々が子孫を繋ぐ方法、落葉の仕組みを教えられました。

とても楽しく充実した時間を過ごした気がしました。春の観察会もまた参加できればと思っています。



### ☆総会へのご出席のお願い

本協議会の総会がご案内の通り、来る4月9日(日)、午後1時から札幌エルプラザで行われます。また総会終了後の講演会では、マルハナバチの話を予定しています。是非ともご参加の程をお願い申し上げます。

### ☆会員名簿の改定に向けて検討中

会員名簿をこれまで定期的に発行し、会員の皆様方にご配布してきましたが、来年度からの出す名簿について目下、理事会の中で検討中です。これまでは会員の住所、電話を掲載してきましたが、改訂版では個人情報保護法の関係で、住所は管内まで、電話番号は理事等以外は掲載しない方向で検討しています。理事会で決定しましたら、来年度の早いうちに会員の皆様に配布する予定です。

### ☆2年ぶりに2017年度Nacs-J自然観察指導員講習会を開催予定

予告記事でも案内していますが、2年ぶりに本年、2017年度Nacs-J自然観察指導員講習会を帯広市で開催する予定にしています。

日時は17年9月30～10月1日の1泊2日で、「帯広の森はぐくむ」と帯広の森研修センターで、参加費30,000円で行う予定です。最終的に決定したら次号の会報でお知らせいたします。知人、友人等日頃から自然に関心を持っておられる方々に、是非、PRをお願い致します。

### ☆会費未納の会員は、早急にご納入を(会計からのお願い)

本年度も、後僅か半月で終了をいたします。今年度、何らかの事情で会費、未納の方は早急にご納入宜しくお願い致します。また過年度の未納の方も恐縮ですが、その分の納入方も宜しくお願い申し上げます。

北海道自然観察協議会のホームページ <http://www.noc-hokkaido.org/>

会費や寄付は 郵便振替口座 02710-1-8768 振込加入者名 北海道自然観察協議会  
会計 杉本 泰子 〒063-0062 札幌市西区西町南2丁目5-5  
Tel 011-664-9263 E-mail akibare-sawayaka@ma4.seikyoku.ne.jp

観察会保険料は 郵便振替口座 02770-9-34461  
観察会担当会計 小川 祐美 〒047-0155 小樽市望洋台3-13-5  
Tel/Fax 0134-51-5216 E-mail streamy@estate.ocn.ne.jp

観察会報告書・資料は 観察部 山形 誠一 〒064-0946 札幌市中央区双子山1丁目12-14  
Tel/Fax 011-551-5481 E-mail seiichi.y@jcom.home.ne.jp

退会・住所変更連絡は 事務局 池田 政明 〒011-0045 札幌市北区麻生町4丁目9-16  
Tel/Fax 011-708-6313 E-mail ecology@cocoa.ocn.ne.jp

事故発成等緊急時は ケイティエス 担当 本間 茂 Tel 011-873-2655

投稿や原稿は 編集部 村元 健治 〒006-0852 札幌市手稲区星置2-8-7-30  
Tel/011-694-5907 E-mail cin55400@rio.odn.ne.jp

表紙写真 森 繁寿



自然観察 2017 年 3 月 15 日/第 121 号 年 4 回発行  
(会員の「自然観察」購読料と郵送料は会費に含まれます)

発行 北海道自然観察協議会  
編集 北海道自然観察協議会編集部